

# 春風秋霜

江利川毅 県立大理事長



健康長寿は誰もが願つてゐるであり、その大敵の一つが非感染性疾患（がん、糖尿病、循環器疾患、呼吸器疾患等）である。わが国では生活習慣病と呼ばれている。生活習慣とは食事、喫煙、運動、飲酒の習慣である。生活習慣病になるのは本人の悪い生活習慣が原因と認識されがちであるが、本当にそうだろうか。

## ■社会要因も影響

私が理事長をしている公益財団法人医療科学研究所は、去る9月、「健康な社会づくりをめざして―健康自己責任論を超えて何をなすべきか―」というテーマでシンポジウムを行った。そこでは、個々人の健康に社会的要因も大きく影響しているという観点から、さまざまな意見

## 健康な社会づくりへ

復や乗り換えに歩くなど歩行時間が多いからではないかと推測している。また、日本人の食塩摂取量は年々減っているが、加工食品用の塩の消費量もそれとほとんど同じトレンドで減っている。と指摘する。

座長の近藤克則千葉大学教授は、53市区町村の約10万人の高齢者に対して行った手段的日常生活動作（外出、買い物、食事

# 11の予防戦略必要

の準備、請求書の支払い、貯金防戦略が必要となる。今回のシ

の出入りについての調査の結果、ポジウムのテーマが「人」づ

近藤教授は、政令指定都市は公共交通機関が発達しており、そこに住む人たちは駅までの往

原因は悪い生活習慣であり、自

最近「岩盤規制」という言葉

シンポジウムを離れるが、用

(次回は12月17日付)